

海外安全対策情報（2014年1月～3月）

1. 社会・治安情勢

2月5日にトゥズラで民営化後に倒産した企業の元労働者らが補償等をカントン（県）政府に要求したことに端を発した抗議活動が、同月6日から7日にかけて国内全体に波及・拡散し、サラエボ、ゼニツァ、ビハチ、モスタル他、国内各主要都市の政府庁舎前で経済的停滞及び政府汚職等に対する反政府デモへと発展し、トゥズラを含む上記5都市では、政府・その他施設への放火等の暴力行為が発生した。首都サラエボでは、2月7日にデモ参加者と警察機動隊が衝突し、暴徒化したデモ参加者がサラエボ・カントン政府庁舎及びボスニア・ヘルツェゴビナ大統領府内に侵入・放火を行った他、同建物周辺の駐車車両やバス停等が破壊された。また、同7日、トゥズラやゼニツァではカントン政府庁舎等がデモ参加者に占拠・放火され、モスタルでは政府庁舎及び市役所その他、政党事務所も占拠・放火される等、一連のデモで多数の負傷者が発生する事態に発展した。

2月8日以降もサラエボやモスタル等で連日デモは続いているが、カントン政府首相らの辞任を受けて緊張は緩和、衝突事案等は発生しておらず、交通への影響はありつつも、いずれも平穏に終わっている。また、各地で「総会(Plenum)」と呼ばれる市民集会が形成されており、同集会で統一された要求事項は各カントン議会に提出されている。トゥズラ・カントン議会は市民の要求を全て受入れ、特に、解任されたカントン閣僚や首相が12ヶ月間にわたって給与を受け取る権利を廃止することを決定するなど、大きな前進も見られた。

一般治安情勢については、国内で強盗事件や発砲事件がほぼ毎日のように発生しており、手榴弾等による爆破事件も散発的に発生している状況である。また、窃盗事件は特に多く、日本人観光客及び在留邦人がサラエボ市内及びモスタル市内の観光地でスリ被害に遭う事案も発生しているため、観光シーズンが始まる4月以降の滞在中は十分な注意が必要である。

2. 邦人被害事案

(1) 3月上旬、団体ツアーに参加していた邦人旅行者が、サラエボ市内旧市街地区のバシチャルシヤ内にあるレストラン（ポド・リポム）で昼食後、グループと共にバスが待機する国立図書館方面へ歩いていたら、ふと背負っていたリュックサックに違和感を感じたが、そのままバスに乗車。乗車後にリュックサックの中身を確認したところ、財布及びパスポートが入ったポーチが盗まれていることに気づいた。被害女性の後ろには他の参加者が歩いており、男性と女性の2人組が被害者女性の後ろを歩いていたら確認している。

(2) 3月中旬、団体ツアーに参加していた邦人旅行者が、モスタル市内の観光地である旧市街で、パスポート等の貴重品を盗まれた。

3. 邦人以外の被害事案例

- (1) 1月上旬、午後3時頃、トゥズラ市内にある銀行「Komerčijalna Banka」で2人組の男による武装強盗事件が発生。犯人は警備員から武器を取り上げ、現金を奪って現場から逃走した。
- (2) 1月中旬、サラエボ市内スケンデリアの Terezije 通り（ミリャツカ川沿い）にある賭場「Williams」でナイフを所持した2人組の男による武装強盗事件が発生。犯人らは現金約2,000KMを奪って現場から逃走した。
- (3) 1月下旬、午後9時頃、サラエボ市内ノボ・サラエボ地区の Grbavicka 通りにある食料品店「Rasmer」で、ナイフを所持した男による武装強盗事件が発生。犯人は現金約1,000KMを奪って現場から逃走した。
- (4) 2月上旬、午後8時30分頃、サラエボ市内中心部の Branilaca Sarajeva 通り（国立劇場が所在する通り）にあるミニマーケット「Mercator」で拳銃を所持した男による武装強盗事件が発生。犯人は現金を奪って現場から逃走した。
- (5) 2月中旬、サラエボ市内中心部の Jadranska 通り（BBI センターの裏側）を歩いていた女性が、男に襲われる路上強盗事件が発生。女性は財布とネックレスを奪われた。
- (6) 2月下旬、午後7時25分頃、サラエボ市内ノボ・サラエボ地区にあるトラム乗り場で、北朝鮮人3名が強盗被害に遭う事件が発生。3人組の男はナイフで被害者らを脅し、現金及び携帯電話を奪って現場から逃走した。
- (7) 3月上旬、サラエボ市内ノボ・サラエボ地区の Trg ZAVNOBiH-a 通りにあるミニマーケット「Drvopromet」で強盗未遂及び発砲事件が発生。犯人の男が拳銃を所持してレジから現金を奪おうとしたが、偶然居合わせた内務省警官が犯人に銃口を向け、拳銃を置くよう警告した。犯人の男は警告を無視し、警官に発砲したが、警官も同時に拳銃を発砲し、犯人の男は頭と脚を負傷した。
- (8) 3月上旬、午前9時40分頃、郵便局「Hrvatske Pošte」の女性従業員2人が現金輸送のため車両でメジュゴリエ事務所を出発し、チトルク市に向かっていた途中、ライフル銃を所持した覆面2人組の男に襲われ、現金13,000KMが入ったバッグを奪われた。犯人らは車（Golf4）で逃走したが、同車両はモスタル市内で盗まれたものと見られている。
- (9) 3月上旬、午後11時30分頃、サラエボ市内ノボ・サラエボ地区の Dzemala Bijedica 通りにあるカフェ「Mladost」前の駐車車両から降りてきた男が突然カフェに向かって拳銃を発砲し、カフェにいた男性2人及び女性1人が負傷する発砲事件が発生。犯人は翌日逮捕されており、犯行の動機はカフェ店オーナーとの個人的トラブルと見られている。
- (10) 3月下旬、サラエボ市内旧市街地区の Pod bedemom 通りで、オーストリア人が拳

銃を所持した覆面 2 人組の男に襲われる路上強盗事件が発生。犯人らは被害者から現金 30KM 及びカメラを奪って現場から逃走した。

5. テロ・爆弾事件発生状況

- (1) 1 月下旬、午前 3 時頃、モスタル市内中心部の Marsala Tita 通りにある元サッカー選手でサッカークラブ「Velez」の前経営者である Samir Cemalovic Pika の住居及び事務所前で爆破事件が発生。この爆発により車両 2 台と建物が損害を受けた。けが人はいなかった。
- (2) 2 月上旬、午後 10 時 15 分頃、サラエボ市内スケンデリアで広告会社「Vector Design」の建物が爆破される事件が発生。当局によれば、「Vector Design」のオーナーは以前から犯罪者グループに脅迫されており、今回の事件は同グループの復讐行為と見られている。
- (3) 3 月上旬、午後 10 時 55 分頃、サラエボ市内ノボ・サラエボ地区の Haki je Kulenovica 通りと Avde Hume 通りの交差点で何者かが手榴弾を爆破させる事件が発生。人的被害はなかったが、周辺の建物・駐車車両などへの物的損害が生じた。
- (4) 3 月中旬、バニャ・ルカ市内の Lazarevo 地区で、バスの中に手榴弾が投げ込まれ爆破する事件が発生。この事件によりバスの運転手 1 人が死亡し、2 人が負傷した。容疑者は既に逮捕されており、同容疑者である精神障害者の男と殺害されたバスの運転手は 4 年間にもわたってもめていた。犯行動機は報復行為と見られている。
- (5) 3 月下旬、午前 11 時、サラエボ市内ツィグラネの Husrefa Redzica 通りにある公共駐車スペースで爆破事件が発生。爆発物は 2 台の車両の間で爆発し、同車両に損害が生じた。

6. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人が対象となる事件は認知していない。